

株主のみなさまへ

第22期中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342

ご挨拶



代表取締役社長 福永健司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第22期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことをめざしております。

この経営理念を実現するために、グループでは基礎・探索研究から、非臨床、臨床及び診断・解析まで網羅した創薬支援サービスを行うCRO事業及び診断解析事業を展開するとともに、グループの収益基盤強化を目的として事業承継・再生事業分野を対象とした投資・コンサルティングを展開するTGBS事業を営んでおります。

事業の状況としましては、下記「業績概要」に記載のとおり、概ね計画どおり進捗しており、下期も確実に推進することで通期の増収・増益を達成したいと考えております。

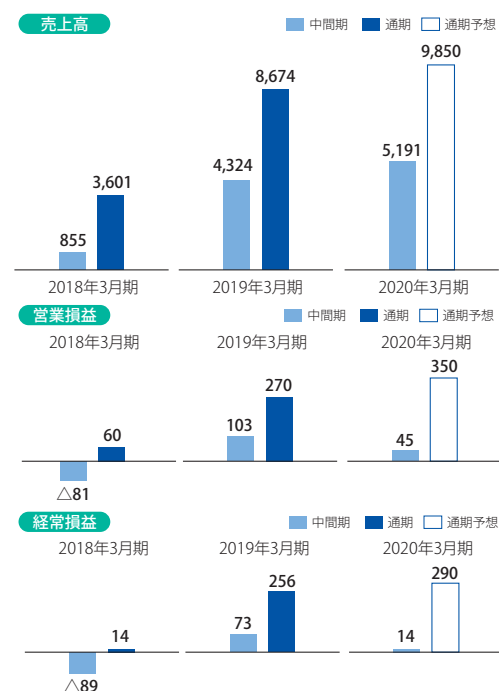
株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役社長 福永健司

業績概要

◆ 第22期第2四半期連結累計期間（中間期）の業績 単位:百万円



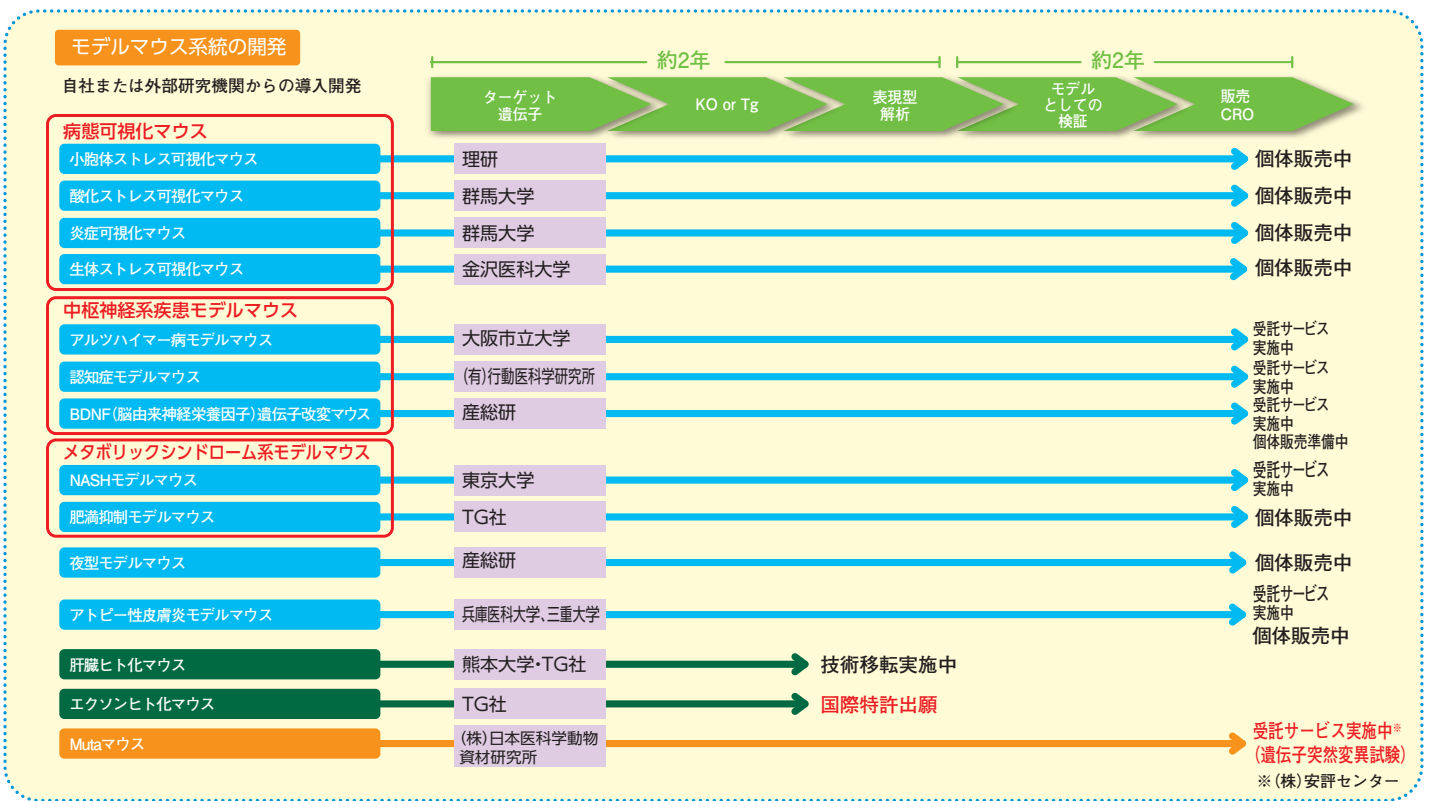
当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高5,191百万円(前年同期比20.1%増)、営業利益45百万円(前年同期比55.5%減)と増収減益となりました。また、経常利益については14百万円(前年同期比79.8%減)、親会社株主に帰属する当期純損失は41百万円(前年同期比70百万円減)となり、前年同期比で大幅減益となりました。

この要因は、これまで1年周期で業績に凸凹が発生しているバイオ関連事業セグメントに関しまして、当期は凹の年となっていることが挙げられます。当上期のバイオ関連事業売上高は1,167百万円(前年同期比13.6%減)、営業損失20百万円(前年同期比185百万円減)という結果となりました。もっとも、バイオ関連事業については、これまでも業績凸凹に関係なく下期偏重の構図で、グループの収益構造がバイオ関連事業のみであった前々上期以前は、上期は営業赤字ながらも、下期の営業黒字で通年の営業黒字を確保する構図が通常でした。この構図を改革するために前々下期から投資コンサルティング事業を開始したわけですが、当該セグメントは確実に、その成果を出しつつあり、当第2四半期連結会計期間における売上高は4,024百万円(前年同期比35.4%増)、営業利益は167百万円(前年同期比132百万円増)と大幅増収増益を達成しております。この結果、売上・利益が下半期偏重のバイオ関連事業を有しながらも、上期で全体営業黒字確保という結果となりました。

通期業績見通しに関しましては、前述のとおりバイオ関連事業は、凹の年と申しながらも下半期は規模拡大に応じた売上高及び営業利益を確保し、これまでどおり通年では営業利益を確保することを見込んでおります。また、投資コンサルティング事業に関しましては、バイオ関連事業ほどの季節変動はないものの、上半期よりも下半期の売上高・営業利益が拡大する傾向があるため、上半期業績以上の数値を確保することを期待しており、通期業績は昨年同様、増収・増益を見込んでおります。

◆研究開発状況

■モデルマウスの導入・開発状況



◆事業トピックス

エクソンヒト化マウス

当社研究開発において、エクソンヒト化マウスの有用性を見出し、2019年5月27日に国際特許出願いたしました。

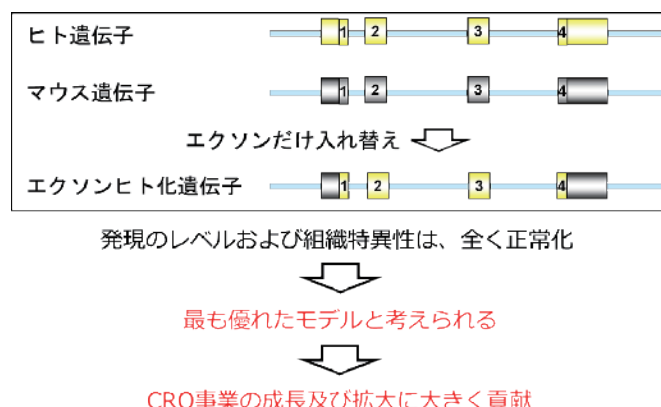
エクソンヒト化マウス技術についてご紹介します。

エクソンヒト化マウスは、マウス遺伝子のイントロンはマウス塩基配列を保持したままでエクソンだけがヒト塩基配列を保持する技術です。

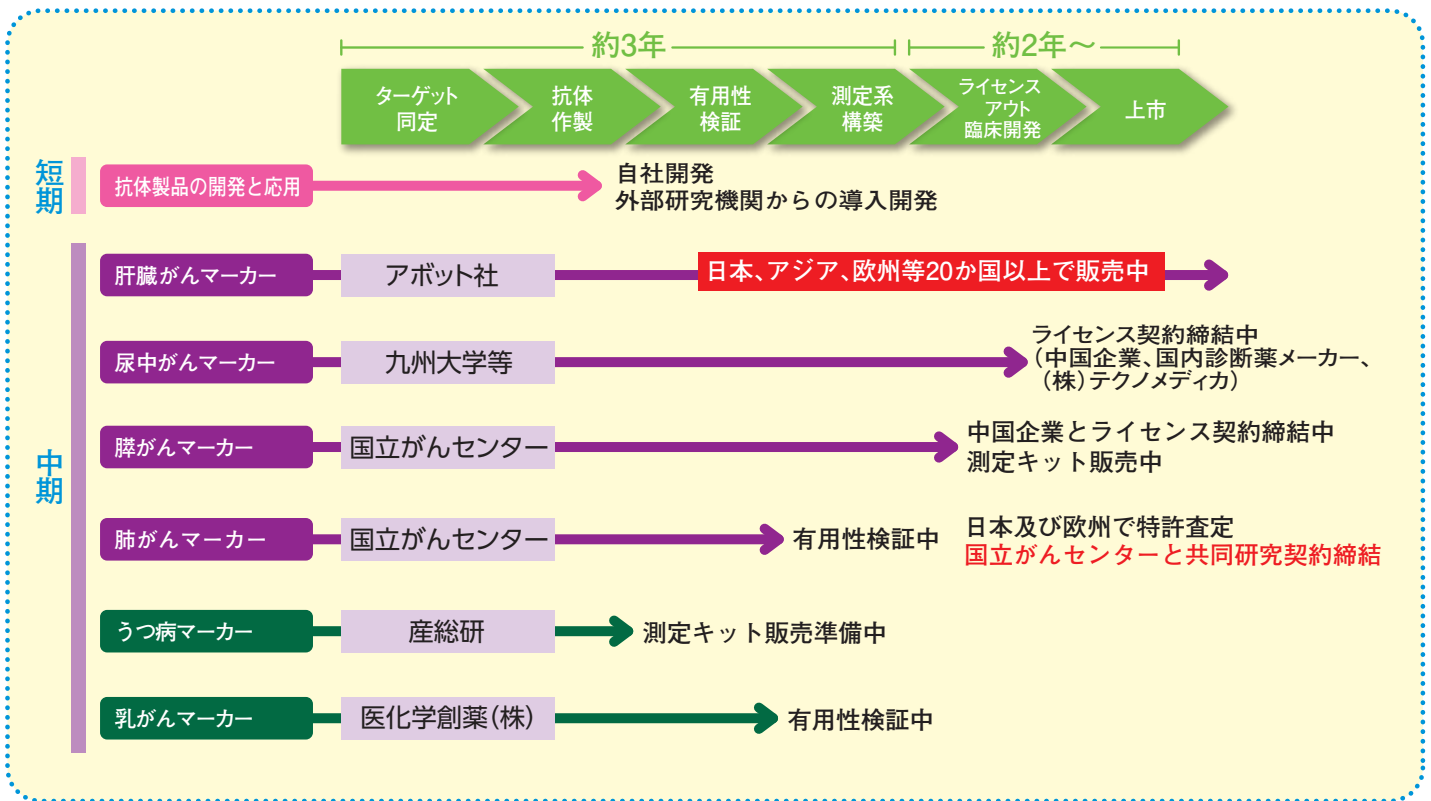
従前の相同組換え法を利用したヒトDNA導入マウスでは、遺伝子発現制御機能が損なわれていることからヒト遺伝子の発現量が高値であったり低値であったりと、必ずしも正常ではなく、また発現の組織特異性も異なるなど多くの欠点がありました。そのため、従来法で作製されたヒトDNA導入マウスでは、疾患モデルとして病態解析には使用できるものの、治療法の開発とその有効性の検証に使用するには、正常な発現量と発現パターンが求められることから、病態モデルとしては限界がありました。

エクソンヒト化マウス技術では、ヒトの遺伝子発現パターンが量的にも、組織特異的にも正常に発現されることが可能となります。

このことから、この技術を用いて作製されたヒト疾患モデルマウスは、核酸医薬等の薬剤及び遺伝子治療の効果をみるうえで極めて有用と考えられます。



■開発パイプライン状況：抗体・診断薬・治療薬



◆2020年3月期事業トピックス

2019年	5月	マウスモノクローナル抗体可変領域配列の解析サービス開始
		株式会社ボナックとの包括的業務提携契約締結
		「エクソンヒト化マウス」に関して国際特許出願
	6月	国立がん研究センターとの新規肺がんマーカーに関する共同研究契約締結
		GANPマウス技術による体外診断薬の上市に係るマイルストーン受領
		コンパニオン診断システム「オンコマインDxTargetTestマルチCDxシステム」保険収載ならびに検査サービス開始 ^{※1}
	7月	京ダイアグノスティクス株式会社との代理店契約締結
		北海道小樽市との自己採取HPV検査サービスの契約締結 ^{※1}
	8月	北海道紋別市との自己採取HPV検査サービスの契約締結 ^{※1}
	9月	PDSX models (ヒト由来がん幹細胞スフェロイド細胞とPDSXモデルによる試験サービス) 開始
		Mutaマウスに関する権利譲渡契約締結 ^{※2}
	10月	北海道利尻町との自己採取HPV検査サービスの契約締結 ^{※1}

■ 特許査定 ■ 共同研究 ■ 製品・サービス ■ その他

会社概要 2019年9月30日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	3,484百万円
従業員数	27名(単体) 231名(連結)
事業所	
本社	福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員

代表取締役社長	福永 健司
取締役	北島 俊一
取締役	山村 研一
取締役	船橋 泰
取締役	渡部 一夫
取締役	清藤 勉
常勤監査役	鳥巢 宣明
監査役	佐藤 貴夫
監査役	光安 直樹

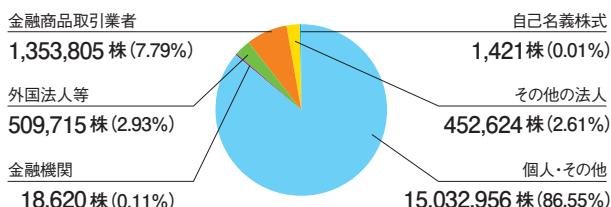
株式の状況 2019年9月30日現在

発行可能株式総数	43,630,100株
発行済株式の総数	17,369,141株
株主数	12,655名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SBI証券	559,555	3.22
楽天証券株式会社	246,800	1.42
奈良岡 武義	167,000	0.96
株式会社ムトウ	160,200	0.92
松井証券株式会社	155,500	0.89
BNY FOR GCM RE GASBU	129,900	0.74
福永 健司	120,800	0.69
原田 育生	120,100	0.69
マネックス証券株式会社	119,899	0.69
J.P.Morgan Securities plc	116,700	0.67

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所 マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。
ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしています。

ir@transgenic.co.jp

